

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 21 日現在

機関番号：32507

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520318

研究課題名(和文) 19世紀アメリカ文学にみる「島」の表象－孤立と共存の思想・文化研究

研究課題名(英文) Representation of Islands in 19th-century American Literature: Isolation and Hegemony

研究代表者

佐久間 みかよ (SAKUMA, MIKAYO)

和洋女子大学・言語・文学系・教授

研究者番号：00327181

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円、(間接経費) 510,000円

研究成果の概要(和文)：19世紀アメリカ文学者がとりあげた島のなかで特徴的なものは、ナンタケット島に関するものである。大西洋に面したこの小さな島の歴史は、アメリカ植民と捕鯨業の歴史とともに推移した。その歴史から、この島を直接物語に使った作品、メルヴィルの『白鯨』とポーの『アーサー・ゴードン・ピムの物語』、この島を訪れたエマソンやソローの記録が生まれた。現在残酷という印象をともしればいだかせる捕鯨の基地に作家たちはある種のロマンティズムを描いている。それはこの島の持つ孤立性に共感を抱いているからであり、島が喚起する孤立するイメージが肯定的なものとして受容され、アメリカ外交の孤立主義に影響を与える経緯を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：Among the works of nineteenth-century American writers, the tales and records on Nantucket, a small island, isolated but not impossibly approachable, on the Atlantic signify nothing but intriguing aspects with the view to its history of migration and whaling. Many literati heard about or visited this island, and made their experience into the works, including Herman Melville's Moby Dick, Poe's The Narrative of Arthur Gordon Pym, and the journals of Emerson and Thoreau. The examination of their works reveals romantic gaze into the island, although the island was famed for the whaling, which could contain ferocious and terrifying exposure. The reason why a lot of literati were nonetheless attracted to this island should be collateral to their mentality that cherishes isolation, and the generations of American culture have formulated political Isolationism in foreign affairs as well.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：英米・英語圏文学

キーワード：島の表象 19世紀アメリカ文学 メルヴィル 孤立主義 ナンタケット 捕鯨

1. 研究開始当初の背景

アメリカ文学史のキャンノンといわれる作品リストが見直される中、とりわけ 19 世紀作品の再評価がすすんでいる。そこで 19 世紀アメリカ文学自体を国境を越えた広いコンテクストで影響関係を考察する必要が生じている。また、文学作品で描かれる自然と人間の関係もエコグローバルな視点の導入により、新しい視点での批評が可能になったといえる。

文学史再編における 19 世紀アメリカ文学再考という観点でみると、アメリカ文学研究における一つの特徴に、文学史の編集が繰り返し行われることがある。それはアメリカ文学を考える上で、歴史性が重視されるからであり、アメリカ文学の捉え方に国自体の歴史認識と文学の編成が深く関わっている特徴が指摘できる。これは歴史をたえず現代的意義で見直す修正主義的思考と無縁ではないと思われる。F.O.マシーセンが *American Renaissance*(1941)をあらわし 19 世紀文学の代表的作家群像を描き出して以来、キャンノン作家の研究がすすむ一方で、*Columbia Literary History*(1988)や *The Heath Anthology*(1990)などによるアメリカ文学史の書き換えにより、マイノリティ作家の位置づけが行われた。しかし、この流れにも変化がおき、2007 年に出版された Wai Chee Dimock と Lawrence Buell の編集する *Shades of the Planet* にみられるように、キャンノン作家とマイノリティ作家の橋渡しを行なう指針の模索が行なわれていると考えられる。その指針としてビュエルが論じるエコグローバル主義は、ナショナルな欲求とトランスナショナルな性格を内包させる自然観の提示という観点で、19 世紀文学と現代のアジア系及びネイティブアメリカン系作家との連続性を考察しようとしている。こうした研究動向から 19 世紀キャンノン文学の再定位の動向とその際の世界の中でのアメリカ文学の位置づけ、自然観の捉え方の重要性が指摘でき、本研究はこの批評動向に新たな視点を与えるものであると考える。

ここで自然観の変遷を考える際に動物表象に注目することができる。動物表象を考察する際、Cary Wolfe の論考が、動物表象を境界意識の再考という点で先端的である。Cary Wolfe は他者表象の究極としての動物表象の考察をつづけ、哲学的および生命倫理的発想での批評を提示している。その論考の流れは、動物と人間を境界づける言語という側面から、ジャック・デリダの論文 “The Animal That Therefore I Am” にあらわされるような両者を橋渡しする共感という点で、究極的に人間とは何かを考える哲学的側面へと向かっている。そして Wolfe はその流れを示すような論集 *Philosophy and Animal Life* (2008) を編集した。この視点で 19 世紀文学を見直す

と、動物への共感という面では、感傷小説の研究 (Cathy N. Davidson ら)、また奴隷制反対の研究 (Elizabeth Clark) で共感の果たした役割と文学作品への影響の論考との接点が考えられる。ここから 19 世紀文学を見直す際に作者の他者への感情移入という側面での評価が考えられよう。これまで他者、異物、異界と考えられてきたものへの視点の広がりを見せるのが 19 世紀文学の特徴であるといえ、その点を考慮した文学作品の再評価が必要である。

2. 研究の目的

19 世紀アメリカ文学の見直しが行なわれている経緯から「島」をキーワードとして考察することで新たな 19 世紀アメリカ文学の視点の提示し、アメリカ文学理解の地平を広げることを目的とする。その際、動物表象に関する研究から知見を得た動物と人間の境界を考える生命倫理的かつ哲学的発想での批評の展開とエコグローバルな観点に立つ批評の展開を「島」というひとつの場の意味を考察する。時間横断的に島の意義を論じる今福龍太の論考を参考にしつつ、今日グローバルという言葉が意味するものを再考し、19 世紀作家の島の表象に含まれるアメリカ的要素の特徴を分析する。

3. 研究の方法

本研究は、メルヴィル、エマソン、ソロー、ポーの作品の分析が中心となる。そのため以下の調査を行い、資料を収集し、学会での発表を通して情報を集めた。
平成 23 年度: 5 月九州アメリカ文学学会シンポジウムでの発表、6 月メルヴィル国際学会 (ローマ) での発表。8 月南洋諸島への現地調査。ニューヨーク歴史協会での資料収集

平成 24 年度: 6 月エマソン・ホーソン・ポー合同国際学会での発表 (フィレンツェ)、10 月 PAMLA 学会でのスペシャル・セッション (Island and American Culture) の企画・司会 (シアトル)、ニューヨーク・パブリック・ライブラリーでの資料収集。

平成 25 年度: 6 月メルヴィル国際学会での発表 (ワシントン D.C.)、マーク・トウェイン協会シンポジウムでの発表。ニューヨーク・パブリック・ライブラリーでの資料収集。ナンタケット捕鯨博物館およびニューベッドフォード捕鯨博物館での資料収集。

4. 研究成果

研究年度 2 年目にあたる平成 24 年にアメリカの学会 PAMLA (太平洋古典・近代語学会) の年次大会でスペシャル・セッションの企画司会ができ、4 人の日米の研究者の間でアメリカと島というテーマで活発な意見交換を行うことができた。このセッションでは、島を地理的な意味だけでなくメタファーとしてどのような意味があるのかを考察した。

19 世紀アメリカの島の表象を考える際に未知の土地への探検記が多く読まれた。とりわけ南海への探検記は、太平洋の島の姿をとらえ、島に対するエキゾチックなイメージをつくり出した。翻ってこのころアメリカ合衆国では、様々な大陸からの移民を受け入れることになる。こうした動き自体が当時のアメリカの世界のなかでの位置を示したものと見える。モンロードクトリンによりヨーロッパからの干渉を排するという孤立性を維持しつつ、多くの移民を受け入れ、とりわけ捕鯨業により世界の海に進出していった。アメリカはこうした相反するモーメントの中で揺れ動いていた。これに対し、4 人のスピーカーが以下のような発表を行った。初期メルヴィル研究の第一人者メアリー・K・バーコウ・エドワーズ氏はアメリカの政治、とりわけ 19 世紀の拡張主義がもたらした矛盾を文学作品のなかの島が表象していると指摘し、この時代のアメリカ人と現地人との出会いにアメリカ文化そのものが抱える矛盾があらわれているとした。またメアリー・ナイトン氏はグアムを例にとりポストコロニアリズム時代の脱領土化と軍事化の狭間につくられる島民のアイデンティティの問題を追求した。下河辺美知子氏は、独立革命期のトマス・ペインの論文に注目し、ここで使われる continent (大陸) と island (島) の捉え方を逆転させることで、アメリカ自体が孤島であるという解釈が出来ることを指摘した。巽孝之氏は、フォークナー作品で描かれるニューオリンズを大西洋と太平洋をつなぐ中継地点としての島の性格をもつことを指摘し、アメリカ文化に従来の大陸的文化では捉えられない要素があることを指摘した。4 氏の発表から、これまで等閑視されていたアメリカ文学における島の重要性が確認できた。そこで、具体的に 19 世紀作家たちが描いた島を考察し、大西洋に面したマサチューセッツ州のナンタケット島に多くの作家が訪れ、作品にしていることに注目し、ナンタケット島が持つ意味を考察した。ナンタケット島は当時捕鯨業の中心地として名を知られており、世界の海と連なるといふ特徴を持つ。一方この島は、19 世紀初頭、ナンタケット島出身の多くの船員を乗せた捕鯨船エセックス号が鯨に襲われ遭難したことにより注目されることとなる。助かった 8 名の船員は生き残るため仲間の肉をたべて生き延びたという野蛮との境界をこえる経験をする。この話はナンタケット島ではタブーとなったが、航海記を読む読者に、恐怖と憐憫を引き起こす。こうした経緯とあわせ、ナンタケット島は、海外進出体験が持つ先端性と後進性の双方を引き受けることとなる。作家たちはその双方のイメージを投影させながら、ナンタケット島が実験的にアメリカの経験を先取りし、また島という孤立した状態が、ともすれば暴力

的な経験を神秘的な経験へと変換していく。その過程で認識される孤立主義的志向は、19 世紀中頃の外交政策と軌を一にするものであったことを跡づけ、論文にまとめる準備ができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 4 件)

佐久間 みかよ、メルヴィルとトウェイン-死者のレトリックと蛇行する語り、マーク・トウェイン研究と批評、査読有、13号、2014、19-26

佐久間 みかよ エマソンの音楽性とトランセンデンタリスト、和洋女子大紀要、査読有、53集、2013、83-90

佐久間 みかよ “Povertiresque”: The Representation of Irish Emigrants in Nineteenth-century America、The Japanese Journal of American Literature、査読有、22号、2013、47-63
佐久間 みかよ、群島の思考-Herman Melville の Encantadus, Enchanted Isles 考、和洋女子大学紀要、査読有、51集、2011、91-99

〔学会発表〕(計 6 件)

佐久間 みかよ、メルヴィルとトウェインの南北戦争、マーク・トウェイン年次大会、慶應義塾大学、2013年10月14日

佐久間 みかよ、Melville's Aspects of War and Dickinson's Concept of War through the Imagery of Islands、第9回国際メルヴィル学会、ワシントン D.C.、2013年6月5日

佐久間 みかよ、シンポジウム メルヴィルと戦争、日本アメリカ文学学会全国大会、名古屋大学、2012年10月14日

佐久間 みかよ Emerson's Musicality, エマソン、ホーソーン、ポー合同国際学会、フィレンツェ、2012年6月8日

佐久間 みかよ Melville' Use of Music, 第8回国際メルヴィル学会、ローマ、2011年6月22日

佐久間 みかよ、メルヴィルと戦争、九州アメリカ文学学会、福岡大学、2011年5月8日

〔図書〕(計 2 件)

佐久間 みかよ 「マン島の水夫、孤島に生まれて」-アイルランド移民表象とアメリカン・ルネサンス作家、環大西洋の想像力-越境するアメリカン・ルネサンス作家、査読有、彩流社、2013年、346-36
佐久間 みかよ、エマソンのネットワークとソロー、ソローとアメリカ精神-米文学の源流を求めて、査読有、金星堂、

2012年、221-236

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.islands-culture.com>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐久間 みかよ (SAKUMA, Mikayo)
和洋女子大学言語・文学系・教授

研究者番号：00327181